

# 東京オリパラから学ぶこれからの バリアフリー研修

愛知県重度障害者団体連絡協議会

〒466-0037 愛知県名古屋市昭和区恵方町 2-15

## 助成事業の概要

コロナ禍で延期になった東京オリンピック・パラリンピックが開催され、東京オリパラでは、3つの基本コンセプトのひとつに、「多様性と調和」があり、共生社会を実現するためには、このコンセプトとレガシーを生かし、愛知県において、どのように受け継ぐのか、様々な立場の者が集まり議論することが重要です。開催前から開催後までのバリアフリーという視点から、成果と課題について、選手や参加者、専門家等の関係者を招き学習会、講演会とシンポジウムを開催します。

メインテーマ：『東京オリパラから、アジア競技大会への継承』

### 第1回 バリアフリー化に向けての学習会

日程：2021年7月9日（金） 18時～20時

内容：「観戦及びアクセスなどのバリアフリー化に向けての取り組み バリアフリー研究障害当事者から学ぶ」

### 第2回 連続シンポジウム(1)

日程：2021年10月31日（日） 14:00～16:00

内容：「スポーツはだれでも楽しめる、そして参加できる感動をあたえる」

### 第3回 当事者参画の施設整備 学習会

日程：2022年1月18日（火） 18:00～19:30

内容：「ビックイベントを契機としたバリアフリーの推進」

### 第4回 連続シンポジウム(2)

日程：2022年1月29日（土） 14:00～16:00

内容：「誰もが利用しやすい、世界基準に達した競技場を目指して！」

## 事業の成果

学習会、連続シンポジウムを開催しての成果

### 第1回 「バリアフリー化に向けての学習会」

講師：佐藤聡氏（DPI日本会議 事務局長）

日程：2021年7月9日（金）

・観戦及びアクセスなどのバリアフリー化に向けての取り組み

・ワークショップなどの開催による障害当事者の声、当事者参画の必要性

### 第2回 連続シンポジウム(1)「東京オリパラから、アジア競技大会への継承

～スポーツはだれでも楽しめる、そして参加できる感動をあたえる～」

日程：2021年10月31日（日）

登壇者：辰巳晃一（アトランタパラリンピック・車いすマラソン出場 愛知県パラ陸上協会会長）

高橋美絵（スポーツ大会ボランティア 自立生活センター ぴあはうす）

ファシリテーター：伊藤葉子（中京大学 教授）

・選手が感じたパラリンピックのすごさや競技及び環境など体験した話を聞き、学びとなりました。

・障害有無ではなく、スポーツなどの楽しいと思うイベントが、社会への啓発及び参加へのきっかけとなるため、まず参加出来ることが必要。

### 第3回 当事者参画の施設整備 学習会 講師：

佐藤聡氏 (DPI 日本会議 事務局長)

日程：2022 年 1 月 18 日 (火)

・ビックイベントを契機としたバリアフリーの推進

・参加市議より「IPC の基準も踏まえ、当事者の声が必要ということを改めて認識した」との感想があった。

第 4 回 連続シンポジウム (2) 「東京オリパラから、アジア競技大会への継承

～誰もが利用しやすい、世界基準に達した競技場を目指して！」

日程：2022 年 1 月 29 日 (土)

講演者：佐藤聡 (DPI 日本会議 事務局長)

登壇者：佐藤聡 (DPI 日本会議 事務局長)

ふじた和秀氏 (名古屋市アジア競技大会 団長)

酒井氏 (名古屋市アジア大会担当者)

入谷忠宏氏 (愛重連事務局)

ファシリテーター：磯部友彦 (中部大学 教授)

・東京オリンピック・パラリンピックが開催され、無観客で行われたものの、国内外から多くの選手や関係者が訪れました。国立競技場をはじめ、多くの会場が建て替え、大改修が行われバリアフリー化が行われた。競技場だけでなく、公共交通機関をはじめ、街自体がバリアフリー化され、その背景には、多くの障害者が計画、設計段階から参画したからこそ、実現できたことについて学びました。

ガシーとして引き継ぎ、社会の構築を実現することを発信することができました。

・アジア競技大会の開催に向けて、関係機関 (障害者団体、行政、事業者、報道、一般の方など) とのネットワークのつながりをもつことができました。

・報告書を 60 部作成し、今後、愛知県を通し、アジア大会会場となる県下の市町村への要望活動や学習会に使用します。

## 今後の展開

・東京オリパラでは、どのように、障害者が参画したのか、成果や残された課題等についても、DPI の佐藤氏の話を読み、定期的なワークショップや懇談説明会などを開催し、サイトライン、導線、サインなどを充実していく環境作りのための活動。

・競技施設のみでなく、交通アクセスや宿泊施設など、選手・観客となる方々の全てにおいてのバリアフリー活動を行政も巻き込んだ活動。

・アジア競技大会が一過性のものでなく、大会終了後でも、地域で生活する方たちに繁栄できるようなまちづくりを目指していく。

## 成果の広報、公表

バリアフリー、ユニバーサルデザインという意識は、障害者のみの問題として捉えられがちですが、高齢者、子ども、海外からのお客様など誰もが楽しめる大会を切り口にする事で、みんなが考える機会を作ることが大切になる。愛知県・名古屋市では、2026 年にアジア競技大会開催がきっかけとなり、東京オリパラの成果と課題をし